

# 来尾地区

## 来尾の棚田

### 市木（来尾）地区の概況

来尾地区は江戸期は津和野藩領に属し、明治期より都川村に編入となり、昭和49年より市木自治会とともに活動しています。

天狗石山（1191.8m）を源流とする来尾川流域の狭隘な南北6Kmの集落で、現住戸数22戸、人口30人、高齢化率72%の典型的な高齢者集落です。



標高 560m からの眺望



耕作地（上半分）不作付地（下半分）

来尾地区は斜面が急なため、先人が石を積み上げ田圃を作り、面積を確保し苦勞しながら作り上げたのが棚田です。来尾地区の棚田は枚数約200枚、面積7Haといわれています。近年高齢化と後継者不足により急速に遊休農地化が進み、特に上来尾地区はその7割が遊休農地となり、棚田としての現況も確認できない程の状況となっています。



耕作地



不作付地



### 森田屋の棚田

来尾の棚田の中で中核をなすもので、所有者は森田屋「竹内家」です。現在耕作されている棚田枚数 14 枚、45a で、石積み高さは 5m にも及ぶ壮大な石垣群で、いつ頃築かれたものかは不明ですが、今も営々と作付けが行われ素晴らしい景観となっています。(道路から奥は水口「市川家」の棚田)



# 山王寺地区

# 活動報告 里山笑楽校コットンプロジェクト

松江市公民館中央ブロック(朝日・白潟・城東・城北・城西・雑賀公民館の6館)が参加して山王寺棚田で綿の栽培を行っています。日本で初めて洋綿の栽培に成功した松村豊吉氏(松江出身)を顕彰すること、都市の農村、上流域と下流域の交流を通して棚田の環境保全を目指しています。(平成27年スタート2年目)

平成27年 耕作放棄地開墾からスタート



みんなで種まき



平成27年5月10日 種まき



1週間ほどで発芽



秋に収穫



NP

平成28年5月15日 種まき



冬には糸紡ぎ体験教室を開催



# 地域連携ふんわり実れ

研究者・松村豊吉たたえ



ビニールのかかった畝に洋綿の種をまく参加者

## 松江、雲南市民綿種まく

松江市内六つの公民館などが連携して進める綿栽培計画「里山笑楽校プロジェクト」の一環で、同市民らが10日、雲南市大東町山王寺の農場で洋綿の種まきを行った。日本で初めて洋綿栽培に成功し

た松江市のゆかりの松村豊吉（1868～1959年）の功績を顕彰し、綿による地域活性化を目指す取り組みで、約50人が晴天の下で汗を流した。

豊吉は出雲市出身で、結婚後に移り住んだ松江市内で綿の栽培方法を約30年にわたり研究した。

プロジェクトは、城西、城北、城東、雑賀、白濁、朝日の各公民館の関係者と、寒暖の差が激しく、綿栽培に適した雲南市大東町山王寺の自治会員らが企画。1月以降、草刈りや畝立てなど農場10ヶを整備した。

種まきでは、参加者が用意された約千個の種を、ビニールをかいた畝に約80センチ間隔で手際よくまいた。松江市内内中原小学校2年の糸原莉樹君（8）は「土が硬くて、ほぐすのに苦労した。大きく育ててほしい」と笑顔だった。

農場管理者でプロジェクトチーム代表の多久和厚さん（63）は「たくさんの方が参加してくれてうれしい。収穫を楽しみにしてほしい」と話した。収穫は10～11月ごろを予定し、収穫量や綿の出来によっては商品化も検討する。

# 活動報告 冒険の森てんばプロジェクト

空き家を借り受けて①「森のようちえん」②「森のオフィス」③「研修会場」として活用するプロジェクトです。子供たちが自然の中で自由に遊べる環境は少なくなっています。自分の責任で自由に遊べる場所、企業のサテライトオフィスや研修・合宿会場としての利用を目指しています。カマドでご飯が人気です。(平成28年7月10日スタート)

平成28年4月～7月 環境整備



平成28年7月10日 オープニング 棚田コンサート 230名



ツリーハウスは子供の隠れ家



ロープで木登り(ツリーイング)



人気のかまど ほとんどが廃材利用



地元のおばあちゃん達が花もちづくり



# 棚田に響く喜びの歌声

空き家活用事業開始



山王寺棚田を望む特設ステージでのコンサートを楽しむ親子連れら

## 田舎の良さ磨き交流促進

日本の棚田百選の一つ、山王寺棚田(雲南市大東町山王寺)を望む空き家を活用する「冒険の森てんば」のオープニングセレモニーが10日、雲南市大東町山王寺であった。同市や松江市などから訪れた親子連れら200人が、風光明媚な棚田をバックにしたコンサートなどを楽しみながら交流を深めた。  
(引野道生)



開会式で、空き家だった木造家屋と田、裏山の森を借り受けた地元のNPO・里山笑楽校の多久和厚代表(65)が、一帯を企業「森のオフィス」や自然の中で親子が遊ぶ「森のようちえん」などに活用する事業計画を報告。速水雄一市長が「田舎の良さを磨き多くの人に来ってもらう、雲南ならではのまちづくりの実践だ」とあいさつした。

コンサートは木造家屋に隣接する休耕田で、棚田と中国山地の山並みをバックにあった。ポーカーの森田さやかさん(31)や鳥取県南部町でギターの持田陽平さん(39)が遊べる場所や、木の上が設けられ、親子連れが遊びを楽しんだ。

「素晴らしくて感動した。都会にはないロケーション」と笑顔だった。森にはロープで木登りができる場所や、木の上の小屋を置いたツリーハウスが設けられ、親子連れが遊びを楽しんだ。